

令和4年を迎えて

令和3年もコロナ感染症の影響で、社会も私たちの生活も大きな制約を受けた年となりました。新しい年を迎えて、新しい生活スタイル（ウイズコロナ）への適応能力が試されています。その前提には、基本的な感染対策（手洗い・マスク・ワクチン）があります。そして、皆様にとって明るい年になりますよう、願うばかりです。

諸会合の中止について

連絡会等の諸会合を当分の間（コロナ感染症が落ち着くまで）中止とし、郵便、電話やファックス等でやりくりし、静岡近辺の方の協力を仰いで会の運営を進めていきます。ご了承ください。

書き損じ葉書寄付のお願い

皆様のお手元に書き損じた葉書がありましたら、郵送料の足しにできますので御手数ですが、連絡先までお送りください。

令和3年度の会費納入について

本年度、会員数100名を目標にしています。一人でも多くの方に入会していただき、目標をクリアしたいと思います。会費納入をお忘れの方は、同封の払込書で納入していただくか現金を事務局に届けてくださってもかまいません。

編集後記

会報第22号が多くの方々のご協力で発行することができました。年末のお忙しい中、原稿を寄せていただきました、石神常務理事様、菅沼参事様、杉山様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

皆様の原稿から、退職後の長い人生を心豊かに楽しくすごしていくため、コロナを含む感染症や病気に負けないで過ごしていくヒントをいただきました。一人一人が手と手を取り合って「おかげさま」の心で「自分の体に無理のないボランティア」に励み「頭脳を最大限に活用して興味関心を追求する」ことが、人生100年時代の生き方ではないでしょうか。まさしく菅沼参事のいう「楽しく調子よく」そして、「今が旬」の杉山様の心持ちです。現役の学校事務職員の皆様も、是非、こうした心持ちで仕事に向き合っていただきたいと思います。（未来は、明るい心から開かれる。）

今後とも、皆様をつなぐこの会報をもっと身近にそして読み応えのあるものにしていきたいと考えています。皆様の御意見や御要望を遠慮なくお寄せ下さい。そして皆様からの自由な投稿をお待ちしています。

また、この会への加入や会の運営など皆様の御支援御協力をよろしくお願いいたします。会報の感想や皆様の身近な話題等を掲載していきたいと思いますので、下記連絡先に原稿を寄せていただければ幸いです。

<連絡先> 静岡県教育会館内 県退職小中学校事務職員会事務局 岡田寿彦
〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12 電話 054-252-1011

静岡県退職小中学校事務職員会 会報 第22号 令和4年1月31日

<特別寄稿>

「手と手を取り合って」

(一財) 静岡県教職員互助組合
常務理事兼事務局長 石神 恒行

あけまして おめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

互助組合事業につきましては、日頃から深い御理解と御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。互助組合も世の中の動向と同様に、幾つかの課題を抱えておりますが、現在は健全経営を維持しているところであります。

しかし、後期高齢者となる75歳以上の方が2,000万人以上とも言われる昨今、国の動きを見ておりますと、年金の担い手を増やすための対象者拡大に加え、高齢者医療の給付と負担問題を前倒しするため、後期高齢者となる75歳以上の方々の病院での窓口負担を1割から2割に引き上げる医療制度改革関連法案を成立させました。人生100年（歳）時代と平均寿命も延びていることから、医療保険制度については、国もさぞ苦慮していることでしょう。このことは、公的支援の減少、つまり、政府の役割の縮小から、国民の負担がますます増えていくことになり、互助組合にとっても深刻な問題であります。

このように、国の医療保険制度の見直しが頻繁に行われていく中、退職互助部の療養費給付事業をどう維持していくかが、今後の大きなカギとなります。

世知辛い世の中に加え、コロナ禍の閉塞感により、人と人とのつながりが希薄になりつつある昨今ですが、こんな時代だからこそ、相互扶助の精神が重要になってくるのではないのでしょうか。厳しい時代となった今こそしっかりした理念を持って対応していかなければなりません。言い換えれば、理念のない国や組織は発展しないということです。

このように、ますます厳しい時代を迎える訳ですが、現状を俯瞰し、課題解決に向けて取り組んでまいりますので、今後とも事務職員OBの皆様方の御理解と御支援を賜りますよう、お願いたします。

<互助組合事務局に寄せられたお手紙より>

● 「私はまもなく90歳を迎えようとしている一人暮らしのおばばです。しかし、互助新聞の紙面には毎号そんな私をも引き付けられるわくわく感があります。特に、本号では「料理」や「園芸」等の紹介において、私も試してみたいなあという思いを抱かせていただきました。ああ、ありがたき幸せ。」（退職組合員）

「楽しく調子よく」

磐田市立城山中学校 共同学校事務室参事 菅沼 日出彦

小さな頃から、祭囃子を聞くとそわそわするのは、私だけでしょうか。子どもから年寄りまでが笑顔になって、楽しめる祭りが好きです。今もお囃子を聞くと、どこにいても、なぜかそわそわ…。そうした好きが高じて40歳少し手前から、祭囃子の笛を1年に1本か2本作っています。

材料の竹は、寒の入り(小寒)から大寒までの間に取ります。寒中に取った竹は虫が入らないと言われ、ボソボソにならずに年数を経ると堅く締まってきます。

取る際には、出来上がった笛の口や指の位置を想定し、適した竹だけを取るの、取れるのは藪に入って1時間に3本程度です。取ってすぐに、2尺余りの長さに揃え、節を抜き、その後、日陰に3年以上寝かせます。



寝かせた竹は、水分がしっかり抜けます。その後、まず反りを直します。竹を炙り、曲げたい部分の前後を両手で持ち真っ直ぐな木材に押しあてます。炙る際に油が表面に浮き出て、なんとも言えない光沢が見えてきます。真っ直ぐ加減は、一方の穴から反対側が見えればよしとしています(笑)。

次に、穴あけです。見本となる笛を隣に並べ、穴の位置を合わせて竹に印を置きます。太さによって、口から一番近い指の穴までの長さを調整しますが、ここは勘です。その後は、竹穴専用の小刀でひたすらコリコリ。穴が整ったら、竹の内側の節をきれいに削り、可能な限りまーるく反対側が覗けるぐらいにします。そして、竹の両端を揃えれば、竹そのものの細工はおわりです。

その後、口から上の穴を塞ぎます。塞ぎ具合で音が変わるので、調整しながら、適した位置を探し当てます。その次に漆(私は人工漆を使用)を入れます。竹の内側に朱色の漆、笛の頭は黒で化粧します。そして、最後に籐を笛の上下に施して完成となります。

寝かした竹は、年に2本ペースで作っても20余年先の分まで貯まっています。これからもこんな一つ一つの作業を楽しんで、そして何よりも誰かが吹いた笑顔を想像して、昔の祭り小僧は、調子よく祭り爺に変身しつつあります。

「私のいま」

杉山 恵美子

退職をして15年。しっかり町内の女性部(婦人会)の一員となっています。

三島市では、高齢化による役員不足で各町内の老人会や女性部の存続が難しい状況の中、我が桜ヶ丘町内は、両方とも定例会などを開催して健在です。女性部は、毎月の役員会、4部(コーラス、卓球、健康体操、手芸)が、各部ごと月1~2回の活動、年間行事としては、ホウ酸団子作り、ウォーキング、講演会、研修会等を行っています。

私は、コーラス部(こちらが主)と健康体操部に所属。月2回の練習を公民館で行い、年に一度老人ホームの慰問を行っています。練習の開始は午前10時、みんな少し早めに来て、窓を開け椅子を並べ、感染対策をしっかりしたうえで、「おしゃべりタイム」が、始まります。「自身で作ったスカートのお披露目」「お互いのファッションの評価」「今朝のニュースのやり取り」等々。これで発声がスムーズに。ラジオ体操をして、体が温まったところで改めて発声練習を15分から20分。そして曲の練習。

練習終了後、駐車場にて又暫くおしゃべり。「次の練習までお互いに体調を崩さないようにね」の声掛けでやっと解散。私たちのコーラス部は、「楽しく歌おう」がモットーで、楽しんでいます。少し前、「コーラスを辞める」と一人の部員(軽いうつのような)それを聞いた別の部員が「あなたがいないと私は音が正しく取れないの、あなたが隣で歌ってくれるから私もついていくことができ



るの」とあなたは大切な存在、あなたが必要と話してくれた事で、彼女は徐々に元気を取り戻し、体調も良くなり、コーラスを続けています。

人は、年齢に関係なく、お互いが大切な存在、必要な存在と認め合えることの素晴らしさを改めて感じた出来事でした。小さなコーラスグループで、ただただ歌うことが大好きで音や表現が十分とは言えないのですが、皆と出会って楽しく歌い、おしゃべりする中で少しずつですが、その曲の良さを出すことができるようになってきたかなと思います。

町内のコーラス部の活動を紹介しましたが、私自身、生涯歌い続けられるよう、皆さんとのかわりを大切に、日々努力をしていこうと思っています。